

市場のあり方戦略本部（本部長インタビュー）議事概要

<東京都水産物卸売業者協会>

平成29年5月11日（木）
開会9時57分、閉会11時00分
築地市場市場長室

【出席者】

○東京都水産物卸売業者協会

伊藤裕康会長ほか

○東京都

中西副知事（本部長）、中央卸売市場長、中央卸売市場次長ほか

【議事概要】

（東京都）

- ・市場のあり方戦略本部が立ち上がり、豊洲や築地の課題、今後の市場のあり方などを検討している。
- ・検討に当たって、何よりも第一に、築地で今働いている皆様の御意見を伺うことが重要だと考え、こういう場を設けさせていただいた。
- ・しっかりと御意見を聞き、知事に伝えていきますので、よろしく願います。

（卸売業者団体）

- ・まず、知事が平成28年8月31日に、11月7日の豊洲市場開場と築地市場閉場の延期について、東京都卸売市場審議会への諮問をせずに、独断で決定した。少なくとも諮問すべきであったと思う。
- ・（一社）築地市場協会として抗議し、「豊洲市場への移転延期再考の要望」を文書で申し入れ、平成28年9月8日に移転延期の理由について回答があった。その後すぐに新市場建設協議会も開かれ、正式に延期の説明があった。移転延期決定以降、盛土の問題や職員の処分など、様々なことがあったが、既にこれだけの時間が経過しているのに、移転問題について一向に進展がない。
- ・東京都中央卸売市場は、都が開設者であり我々はテナントである。業界と都が一体となって共同経営していくというのが、市場のあるべき姿だと私は思っている。このことを平成29年1月12日の知事の築地視察の際に伝えたところ、知事もそのとおりであると同意していた。その際に、少なくとも3月には決定して欲しいことを伝えたが、知事からは「まだモニタリングの数字が出ておらず、特に安心・安全の面からも、それらの数字の出方も気になるところです」、とそれに対する返事はなかった。
- ・その後、百条委員会や、マスコミでいろいろ取り上げられている都議会選挙のこともあるからか、市場移転問題は棚上げされたまま、現在に至るも答えが出ず、我々は大変困っている。
- ・さらに今回、市場のあり方戦略本部が立ち上がり、市場移転問題だけでなく、市場の

将来や全体像について、長期的な視点で全体の流通の中で考えていくべきという大きな命題まで出てきている。これではますます時間がかかってしまう。

- ・ 専門家会議や市場問題プロジェクトチームも何回か開催された。市場のあり方戦略本部からは報告書も出されており、検討材料はほぼ出揃っている。第3の道は知事自身が否定されているので、豊洲か築地かというところにきているのではないかと、私は思う。
- ・ 豊洲に新市場を建設することは、都が公式に決定されたこと。東京都卸売市場審議会にも通して、第10次東京都卸売市場整備計画を策定している。それを全部撤回するとすると、農林水産省からの補助金の返還、地元江東区との調整、豊洲に残された設備や土地の問題など、大変な作業が生じてくる。
- ・ 一番の問題は、多くの企業体が既に多額の投資をしており、それに対する補償は、豊洲が中止となると、延期とは規模が違い大変な騒ぎになる。逸失利益や訴訟など、大変な問題にならざるを得ないと思う。豊洲をやめるだけで、それだけの労力が要となれば、何年かかるかわからない。
- ・ また、小島顧問の出された築地再整備案は、築地に大きな種地がないにもかかわらず、ほぼローリングである。小島顧問の言うとおりに業界全体の合意がなければできない。みんなが合意して、ある程度我慢しよう、そして将来を見てやっていこうと全ての人が合意しなければできないものではない。
- ・ まだやることはいっぱいあるが、一応ここまである程度の準備ができているなかで、選択の道は豊洲移転しかないと思う。
- ・ 現時点で小島顧問の行動に強い不信感を抱いている。築地再整備を進めるためには業界全体の合意が必要であることを何回もおっしゃっているが、それに合うだけの行動をおとりになっていない。自分に同意するグループだけに話をされ、その人たちの同意のもとで進めようとしている。築地再整備をきちんと考えているなら場内700~800の企業体の合意を得る必要がある。業界の人たちのそれぞれに対してきちんと説明し、みんなの合意を得る努力をしなければならぬ。彼は何もせずにただ煽っているだけで、業界を混乱させている。
- ・ これは簡単に納まるものではない。改めて豊洲に行くと言われても、ここまで引っかき回しておいて、全体の合意をどうやって得ていくのか。これは都の仕事だ。平成28年11月7日の豊洲市場開場に向けて、様々な問題はあったが、とにかく我慢して、必要なものには投資しようということ、みんなでやってきた。それを全部ぶち壊して止めておいて、今になって改めて豊洲に行くと言われても、簡単ではない。小島顧問の案を見て、もう築地でやるんだと思い込んで、いろいろな活動をしている人もいる。
- ・ 小島顧問から、豊洲と築地の1日あたりの維持管理費用の比較など、市場の経営問題が示されたが、まず、豊洲へ行くということを決めたうえで、内容を十分に検討し、みんなで経営計画を練り直していくしかないと思う。これまでやってこなかったことを短期間でやるなんて無理な話だ。
- ・ 市場会計の使い方について、これまで都から説明や相談はなかった。今になって維持管理経費や減価償却について指摘を受けているが、我々にとっては全く初耳である。
- ・ 経営計画が大事ということは、何回も国から出ている。これまでソフト面が大事であ

ることを言い続けてきたが、都とは整備や補修といったハード面の話が中心であった。これからは都と業界が一体となって、どのような市場をつくり上げていくか、どのような市場の活動を日々やっていくのか、それにはどのような視点が大事なのかということ、みんなで検討し、考えながらつくり上げていくべきだと思っている。

- ・業界はそっちのけだ。豊洲の土地購入、施設の規模、閉鎖型とすること、地冷による温度管理の導入も東京都が決めたこと。土地の問題にしても、安全のグレードを上げて、徹底的な土壌改良をすると決めたのは東京都だ。
- ・最初は、我々の意見も聞きながら、どのような市場を作るかというコンセプトから入ったが、人事異動があり2年かけてつくり上げたプランはそのままお蔵入りとなった。あの計画は素晴らしかったと思う。その後は全てハード面の話となり、設計が進んでいった。それぞれの街区のうち、誰がどこを取るかという配置の段階になってから、我々の方に投げかけがあったので、費用やプランも我々は全く知らされていない。
- ・都から相談があったのは使用料だけで、原則として現状のままと決めていただいた。しかし、あとは一切を都で進めていたため、どのような経営計画なのか我々は全く知らない。今回、戦略本部の数字を見て、こういうことだったのかとわかった。
- ・これだけの費用をかけるのだから、本来、市場をどうやっていくのか、業界はどういうことをしていくのか、また負担はどうするのかということを考えていかなければならないのに、そのような話は一切なかった。
- ・建築工事の入札が不調になり再発注をする時点で、建築費がものすごい価格になりそうだと話があった。その後は、大変だということで、都側はどんどん計画を削っていった。例えば、5街区、6街区、7街区の立体駐車場のトイレを削ってしまい今もないままだ。それから、6街区の加工施設も、予算がないから削るといって、どんどん縮小し、最大のテナントが辞退してしまった。また、最初は4 t車で上げられるようになっていたが、とことん規模を小さくしてしまったので、それも上げられない。我々に何の相談もなく、つまらないところばかりケチって今日まで来た。そういった御都合でこの市場はでき上がったから我々としては不満だらけである。
- ・コールドチェーンも我々が見ている範囲では、温度管理が不十分だと思う。もう少し温度の冷える状態でないと無理だと伝えたが、業界で対応するようにと言われた。電話や無線 LAN、ろ過海水も、都の勝手な都合で削っていった。
- ・7街区には駐車場がたくさんあり、どのように車を出入りさせればいいのかと、我々は業界関係者を集め、何時にどこへどういう車を取りに来るのか、日数と手間をかけて全部調べたが、駐車場の使い方が決まらない。加えて当時は、見た目が良くないため、駐車場では積み下ろししないでくれと言われた。そんなことをいったら、どこで積み下ろせばいいのか。話し合いをして、11月から12月の2か月だけは一部のスペースを使用してよいが、原則は7街区1階の積み下ろしはしないでくれと。そんなことで、この大変な物流ができるのだろうか。
- ・都は、ちゃんとした装備もせずに無茶なことを言って、いい加減というか、その場さえ納まればよい。議会が納得してくれればよい。業界はまあまあのところ納まればよいと。このような考えしかない。
- ・都に対して、駐車場に屋根を取り付けてほしい、ろ過海水は都で対応すべきといった

4項目についてお願いしているが、根本的に考え方が違う。都には経営の考え方がなく、どのような市場を作るのか、どのようなニーズがあるか、誰も知ろうとしない。経営の主体である東京都が、そんないい加減な態度で何ができるのだろうか。もう1回原点に戻り、早く方針を決め、その上でどのような市場を作り、長期的に見てどのような問題があるのか考えていく必要があると思う。

- ・ その一方で、農林水産省は市場法と構造改善の二つの法律について、市場制度を含めて抜本的に検討している。そういったことも睨みながら、我々業界と都が一体となって、どのような市場を作っていくか検討する必要がある。
- ・ 市場流通の衰退などといった能書きを言っている段階ではない。市場流通はどんどん変わっている。それに対して発言もしていかなければならないし、変えるものは変えてもらわなければならない。
- ・ 魚離れなどが騒がれているが、そもそも生産から流通、消費まで一貫した考え方がない。今後の展望も含めて水産全体をどうするかということを中心に考えていかなければならない。国にも、とにかく変えていくことが必要であると訴えているところがある。
- ・ そういった検討がある一方で、今やるべきことは、早く方針を決めていただき、その下で何を直していくのか、どこをどうすれば良いのかということを検討していくべきだと思う。これはひと月やそこらでやると言っても、無理な話だ。戦略本部もしっかり時間をかけて、どのような市場が必要なのかを皆で考えていくべきである。
- ・ 卸の経営も単純なものではない。新しいところに行って今の7者体制がもつとは思っていない。非常に厳しい状態がこれから出てくるだろうと思う。その中で、新しいビジネスモデルをつくり上げていくことが大事だと思う。卸はどうか、仲卸との関係はどうか、仲卸はどういうことが必要かなど、出てきた様々な問題を、もう1回原点に戻って市場のあり方として検討していく。小池知事や小島顧問もそういったことを頭に置いて言っているのだとは思いますが、今答えを出せと言っても、簡単に出せるものではない。
- ・ これまで我々はなかなか物が言えなかったが、心ではずっと思っていたし、不満もしっかり溜まっていた。この際それをはっきり言わせていただいているが、やはり都として根本的に考え直すことが大事だと思っている。
- ・ 移転延期になってから処分や人事異動があり、この1年間だけで中央卸売市場の職員も増えている。これだけのことをやって、どう変わったのかわからない。小池知事は都政改革と言っているが、我々から見て市場では何も変化がない。これだけ人を増やしてきて、どこが変わったのだろうか。市場をどうしていくつもりなのか。そこがどうもわからない。
- ・ 我々と都の考えをあわせて、良い市場、しかも今一番求められる市場というものを作り上げていかなければならない。判断を決めることは、ほんの第一歩で、それから先のほうが遥かに大変だと思う。
- ・ 都の仕事は、業界の心をまとめ一本にしていくことが一番大事だと思う。変におもねらず、変にサービスするのでもなく、市場というものがどうあるべきかというところから考え、それぞれの役割を決めていくということが大事ではないか。

(卸売業者団体)

- ・我々は体制を維持することが、非常に大変になっている。方針が決まらない中で、補償については御尽力いただいているが、やはり人の心はそう簡単に変わるものではない。ずっとこの中途半端な状態にされるのは非常に辛い。

(卸売業者団体)

- ・市場を取り巻く問題は非常に大きく、動きも激しいし、劇的な変化も予想される。このような中で、今のような豊洲か築地かで時間を浪費していることは、業界にとって非常にマイナスだ。
- ・やはり決断はできるだけ早くすべきだ。決断するに当たり、二者択一ということであれば、小島顧問がいろいろと案を出したり、戦略本部の資料の中にもいろいろと書いてあるが、現実的には築地というのはなかなか考えづらい。そういった観点から言っても、豊洲ということになるだろう。
- ・もし仮に、小島顧問の築地再整備案でやったとしても、今までと何が変わるのかがわからない。トラックの流通になって、そこに矛盾が出てきている。物流が根本的に変わったのであれば、それに合わせて根本的な変化をした市場というものを考えていかなければならない。今の考え方は、物流の観点が変わっていない。矛盾を抱えたまま市場を新しくしても、当座はそれでいいかもしれないが、やがて同じような壁にぶつかるだろう。
- ・そこに新しい発展というものはあるのか。建物が新しくなったとしても、業界や市場が発展しなければ意味がない。そういう意味からも、豊洲へ行って、豊洲でどうしていくかと、もちろん行く前に考えなくてはならないが、やはり豊洲に行ったうえで、豊洲の中で新しい市場のあり方というものを実践していくということだ。
- ・それを考えるに当たっても、やはり海外との取引。今までの築地にも海外取引はあったが、市場の構造として、仕組みとして取り組まれていない。豊洲ではそういったことにも取り組んでいくことができ、発展の方向を考えることができる。そういった観点からも、早く決めてもらいたい。決めるのであれば豊洲だろう。

(卸売業者団体)

- ・豊洲市場の設計の思想は、「新しい市場を作る」というよりも「移転」「引っ越し」という考え方に途中からなってしまった。都は今の築地市場をそのまま持っていこうという考え方が主流で、我々は抜本的に変えなければならないと思っていたが、波長がうまく合わなかった。

(東京都)

- ・確かに、当時はとにかく早く作るという流れはあった。もっと時間があればうまく対応できたかもしれない。大変申し訳なく思っている。

(卸売業者団体)

- ・今日はこういった機会を設けていただき、ざっくばらんにお話しさせてもらえてよかった。私の思っていることは、概ねお話しできた。

(東京都)

- ・本日頂戴した話については、責任を持って知事にお伝えする。本日はお忙しいところありがとうございました。

(以上)